

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活共同組合	代表者	竹生正人	法人・事業所の特徴	生協介護事業のありたい姿（ご本人の尊厳をまもる、自立を目指すケアをする、自分らしい在宅生活をささえる）を目指し「その人らしい暮らしの実現」に向け職員一同で学習し対応しております。これからも地域の方々に助言を頂きながら、地域とのつながりを大切にし、進んで地域に出向き交流や活動への参加を行ないます。小規模多機能の役割を把握し、安心して地域での暮らしができるよう柔軟なサービスを提供し支援してまいります。
事業所名	県民せいきょう 小規模多機能ホーム 勝山きらめきハウス	管理者	笠川明美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	人	2人	人	5人	人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が、小規模多機能が地域の中でどのような役割を果たしているのかを理解し地域とのつながりを持つ 日々変化する（利用者、家族）情報を毎日の話し合いで共有し対応していく 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模多機能を知るため、全職員が県主催の研修参加できている ケアマネージャーが担当会議などに参加し情報共有ができています 毎日のミーティングで職員間の情報共有はできている 	<ul style="list-style-type: none"> 職員の自己評価項目の理解が今ひとつである為、評価ができていない それぞれの改善計画に対する取り組みは内容からもできていると思うが、何ができて、何ができていないのかはよくわからない 個人チェックに「できていない」にチェックしている職員がいるが、みんなで取り組みができていたら全員ができていて当たり前ではないか、それを評価するのは難しいと思う 評価自体の内容を確認する必要があるのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価を高めるため、全職員が小規模多機能の役割を再認識し、一つ一つの評価項目を理解し、良い自己評価が得られるよう努力する
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 開放感のある環境をつくる 利用者、家族の意見を取り入れ会議で報告していく 	<ul style="list-style-type: none"> きらめき祭りなど行事時に、小規模多機能のホールを開放し利用者だけでなく地域の方にも利用してもらえた 会議では利用者や家族の声など報告できている 	<ul style="list-style-type: none"> 閉鎖的ではない 施設内を毎日観察しているわけではないので評価しにくい、その時だけの評価ならできる 	<ul style="list-style-type: none"> 大人から子供まで、地域の方がいつでも訪れてくれる開放感のある場所作りを目指す

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・営業活動範囲を広め多くの地域の方に「勝山きらめき」を知っていただく ・会議で行事予定を知らせ、参加を募る 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンのお知らせを回覧板で回してもらおう（毎月区長に依頼できている）新しい参加者が増えてきた ・きらめき祭のチラシ配布（広範囲のポスティング）地域の参加が増えている ・会議で地域の行事を確認し職員、サービス付き高齢者向け住宅の入居者と参加ができている 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつなど目に見えてできていることは評価できる ・項目に関して関わりのある事は評価できる ・地域の夏祭りや文化祭に参加はできている 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は勝山きらめきの顔であることを念頭に置き地域の方と関わりを持つ
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で地域の情報（行事など）を得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への行事参加、外出レクリエーションはできている ・会議で地域の独居の方や心配な方の情報交換はできている 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用している人のことはわかる ・会議で行事報告や利用状況などは説明があるからわかる ・中で行なわれていることは外部にはわからない事もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の声を増やしていく（地域以外の民生委員や利用者家族の参加）
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議では事業所報告だけでなく会議でいただいた意見やアドバイスを職員間で話し合い実施し結果を報告する 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議内容は職員に伝達し情報共有し実施できることは行なっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料は当日配布ではなく数日前に配布しないと内容がわからないままの参加になる、何を言っているのかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は事前に配布し会議に参加して頂くよう声かけをする ・会議では毎回、同じような報告をするだけでなく意見交換の場となるよう工夫をする
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に防災訓練は継続し地域の方と協力しながら地域、施設の安全を守る ・新しい情報を察知する 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の定期防災訓練は実施できている ・訓練時指導を受けマニュアルの確認ができている ・市、地域の訓練参加もできている 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練はしていると思いますが詳細はわからない ・事業所内では防災計画が立てられていると思いますが内容まではわからない ・事業所内で行なわれている防災訓練や対策について地域にわかるように伝えるとよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練に参加していただいてその場で意見や指導を受け、共有する（訓練への参加の声かけをする）